

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 総合文化研究科 修士1年

参加プログラム: COP1: Kierkegaard: The Individual in the Global Society 派遣先大学: コペンハーゲン大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

<p>派遣先大学の概要</p> <p>デンマークの首都コペンハーゲンの中にキャンパスが散在している。このコースを開講している神学部は、その中でも街のど真ん中にある。</p>
<p>参加した動機</p> <p>自分の専門の哲学に関係があるため。また、英語での教育や研究の一旦に触れてみたかったため。</p>
<p>参加の準備</p> <p>①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 特になし</p> <p>②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) ビザは不要。</p> <p>③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特に必要ない。</p> <p>④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 東京大学が案内してくれた。</p> <p>⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) とっている授業の教員には、最後の数回を欠席してしまうことを伝え、必要に応じて評価のための特別措置をしていただいた。試験の科目を、在宅課題に変えてもらった。</p> <p>⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 応募の時点で TOEFL80 点程度であったが、明らかにもっとやっておくべきであった。</p> <p>⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 授業で扱うことになるキルケゴールの著作については、事前に日本語訳に目を通した上で、可能ならば持参するのもよい。英語でも読めるならば予め読んでいくにこしたことはないが、難解ゆえ独力で読めない著作だからこそ講義に参加する意味があるという面もあり、実際のところ難しい。日本語の概説書・研究書も役に立つ。</p>
<p>学習・研究について</p> <p>①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 毎回キルケゴールの著作を読むことが課され、教授がそれを解説し、全員でディスカッションをする。他にも教授による解説や、参考になる二次資料が配られる。また、ゲストスピーカーも何度か来た。</p> <p>②学習・研究面でのアドバイス 教授が配ってくれた資料は、難解なキルケゴールの著作の理解に大いに役に立った。最初は全然分からなかったが、時間が経つうちにましになった。とにかく、語彙に慣れ親しむのが早ければ早いほど良かった。Kierkegaard Library も活用するとよい。 分からないところは学生同士で率直に議論しあっていた。キルケゴールが何を言っているか分からないということを経験し、どこが分からないかを掘り下げることで、いくらか明瞭になるところがあった。</p> <p>③語学面での苦労・アドバイス等 教授もアメリカ人で、学生も大半が英語ネイティブで、授業中のディスカッションについていくのが率直に言って困難であった。しかし、授業外の時間に食い下がったら優しく解説してくれたし、互いのアイデアを交換することもできた。</p>
<p>生活について</p>

- ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
 大学が案内してくれた寮に入った。Shared apartment とあったはずが、部屋に一人だけであった。寮は学生ばかりが住んでいるのではなく、普通のアパートの一室が Housing foundation の物になっているという感じ。
- ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
 日本に比べて非常に涼しかった。最高気温は 20 度程度の日が多く、長袖が必要であった。大学から寮までがちょっと遠かったのでバスを利用していた。寮の近くのスーパーを利用し、自炊していた。
- ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
 一度も問題を感じることはなかった。
- ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
 航空賃 11 万円、授業料無料、教科書代 5000 円程度、家賃 10 万円、その他 10 万円ほど。
- ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
 東大から 8 万円頂いていた。
- ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
 週末にコースが主催している bike trip に行った。時間を見つけて市内の美術館を回った。

派遣先大学の環境について

- ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
 制度的なサポートが充実しているわけではないが、教授も事務も非常に親身に相談に乗ってくださった。
- ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
 図書館のカードキーをもらったが、トラブルで結局利用できなかった。Kierkegaard Library は利用できる。スポーツ施設も食堂も利用しなかったが、なかったと思われる。寮と教室には Wi-Fi が通っていた。

プログラムを振り返って

- ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
 キルケゴールの著作について、教授に手引きされつつ他の人と議論しながら読むという機会には滅多にありえないもので、非常に良かった。
 キルケゴールの哲学の主題が「虚無」「不安」「決断」「責任」「絶望」「愛」「幸福」といった個人的な事柄に関わるものだというのもあって、いろいろな国から集まった初対面の学生とも胸襟を開くような議論・交流ができて、充実した時間であった。
- ②参加後の予定
 研究を継続
- ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
 哲学専攻の修士や博士の学生が多かったが、文学や歴史学などそれ以外の専攻の学生もいた。全てに関して理解し議論についていくということができなくても、何か琴線に触れるところを見つけられれば有意義になりうるのだろうと思った。確かにキルケゴールの著作は取っ付きづらい難解であるが、このコースがそれ以上の不要な大変さを付け加えるということは全くなく、知的な面でもそれ以外の面でもむしろ助けになるばかりであった。

その他

- ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
 藤野寛『キルケゴール』
- ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。